

九木田遺跡試掘調査概要報告書

——豊能郡豊能町野間口所在——

1995. 3

豊能町教育委員会

はじめに

豊能町は大阪の北部に位置し、町域の大半は山地で、なだらかな山を縫って川が流れ、川の上流部では豊かな自然の盆地が形成されているのでございます。

先に本町では、川尻遺跡で旧石器時代のナイフ形石器が初めて確認され、縄文時代の石やじりや、平安時代の遺構である住居跡が、また、余野城跡と呼ばれた地域での発掘では、中世の生活集落があったことが判り、切畠地区の切畠中ノ垣内遺跡でも中世の集落跡が発見されているのでございます。

この度、余野野間口地域のは場整備にあたって分布・試掘調査を行ったところ、奈良時代の良好な遺物が出土し、さらに当時の遺構（柱穴、ピット）が発見されました。このことは奈良時代のこの地域での生活実態が今後の発掘調査によって明らかになるのではないかと存じます。

これら先人の残してくれた貴重な文化遺産を大切に守り、そこに秘められた思いを受け継ぎ後世に伝えていくことが、今に生きる私たちの務めではないかと存じます。

今後の調査を実施するにあたって、地元の皆さまはじめ関係各位の多大な尽力を賜わりましたことに対し、ここに感謝の意を表しますとともに今後ともより一層のご理解と、ご協力を頂きまますようお願い申し上げる次第でございます。

平成7年3月

豊能町教育委員会

教育長 石原英志

例　言

1、本書は、豊能町教育委員会が豊能町産業課の依頼を受けて実施した、野間口地区で予定されている圃場整備事業にともなう九木田遺跡試掘調査の概要報告書である。

2、調査の目的は九木田遺跡の範囲を確定し、今後に予定される本調査に向けて資料を得ることである。

3、試掘調査は、大阪府教育委員会から文化財保護課技師辻本武の派遣を受け、平成7年2月から翌3月まで実施し、あわせて内業整理および報告書作成作業を行なった。

4、調査に要した費用は、すべて豊能町産業課が負担した。

5、調査の実施にあたっては、地権者ははじめ多くの方々の御協力を頂いた。感謝の意を表したい。

6、本書の執筆・編集は辻本が行なった。

第1章 位置と環境

豊能町は大阪府の北端に位置し、北は京都府亀岡市に、南は茨木市および箕面市に、西は能勢町および兵庫県川西市に接する。北摂山地のなかを縫うように、猪名川の支流が南流し、山間盆地が開け、そこに集落や耕地が展開している。吉川地区や木代地区では大規模な住宅地が造成されているが、他地区では大きな開発がなく、大阪でも貴重な豊かな自然が残っている。

この豊能町における遺跡としては、1982年の調査で旧石器時代の石器や縄文時代の石器が出土した川尻遺跡がその嚆矢とする。これ以降、弥生・古墳時代の遺跡は、豊能町では知られていない。奈良時代になると九木田遺跡で遺物の散布が見られ、1994年2月に遺跡発見が届け出されている。平安時代では、川尻遺跡で10世紀の掘立て柱建物跡や灰跡が検出され、遺物も土器だけでなく、鉄製品やスラグが出土している。中世になると遺跡は質・量ともに急に多くなる。川尻遺跡では瓦器・土師器・須恵器等の出土があり、鎌倉から南北朝時代のものと報告されている。また余野城跡では1985年の調査で、鎌倉・室町時代の掘立て柱建物が検出され、遺物も多く出土している。1991年度の余野城跡の範囲内の調査では13世紀前半、切畠室前遺跡や切畠中ノ垣内遺跡等では12~13世紀の遺物の出土が報告されている。戦国時代になると、能勢氏の一族の余野氏居城の15世紀末の余野城が現在の城山高校にあったと言われるが、その明確な遺構はまだ確認されていない。

ところで豊能町では中世～戦国時代の石造美術品が数多く散在しており、これらの石造美術を製作する力となった当時の集落跡等は、これまでの遺跡発掘調査で少しずつ明らかになってきており、また今後の調査にもその解明が期待されよう。



第1図 九木田遺跡と周辺の遺跡

第2章 調査の成果

1・2区

耕作土・床土（1、2）の下は基本的に砂・礫・粘土の互層（3～8）で、砂層の一部に流水堆積模様（ラミナ）が見られる。かつての余野川の流路の一部にあたると考えられる。

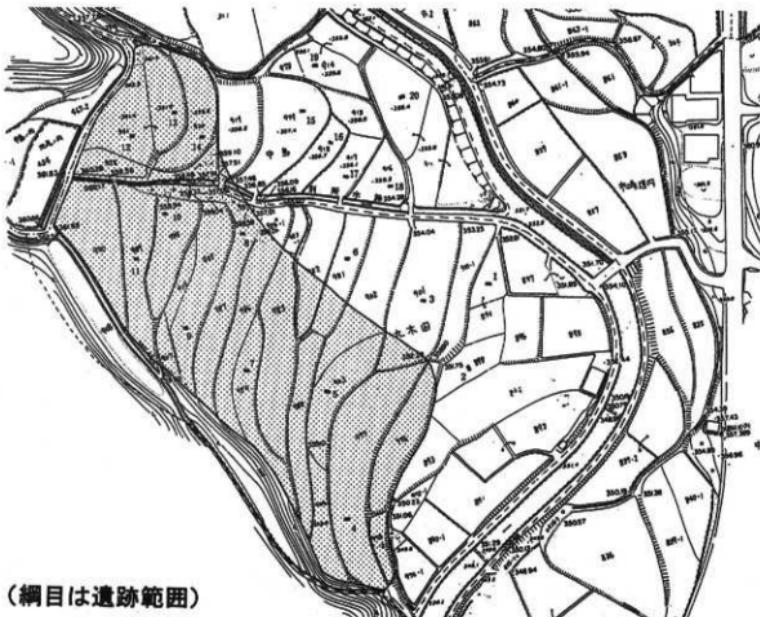
出土遺物は（2）は奈良時代の壺、（3～5）は13世紀の瓦器碗、（1）はその頃の須恵質の鍋である。すべて他から流れこんできたものであろう。

3区

1・2区と同様に基本的に砂・礫・粘土の互層（3～7）であるが、1・2区より 1.5mほど高い位置にあることから、余野川の旧流路ではなく、西から東に向かう小さな谷筋と言うべきものにあたろう。湧水が激しく危険なため、1.3mの掘削で中止した。遺物の出土はなかった。

4・5区

耕作土・床土（1、2）の下で、4区では10～25cm、5区では15～50cmの厚さの奈良時代遺物包含層が見られた。この包含層を除去すると、きれいな黒色粘質土（5）で地山となる。地山面



第2図 調査区の位置と九木田遺跡の範囲

で精査したが、4区では遺構はなく、5区では 0.7×0.7 mのやや方形を呈する深さ 0.3 mのピットが検出された。柱穴にならうかと思われる。

出土遺物はすべて包含層からのものである。須恵器の壺(6~9)、壺蓋(11、13、14)、長頸壺(10)、布目圧痕を持つ製塙土器(12)、土師器の壺(13)、内面に格子状の当て具痕を有する須恵器の壺(16)が出土した。ほとんど奈良時代のものと考えられる。

6区

耕作土・床土(1、2)から地山の黒褐色シルト(6)までは、20~30cmの厚さの砂層で、3層に分かれ。遺物包含層はなく、遺構もなかった。

7区

耕作土・床土(1、2)、奈良時代遺物包含層(3、4)、同時代整地層(7、8)、地山(9)となる。奈良時代整地層は、トレンチ内の南半で灰褐色土、北半で灰黄色粘質土で、遺物は含んでいなかった。この整地層上面で奈良時代の遺構が検出された。P-1は断面にその一部がかかるもので、一辺 0.4 mのほぼ方形、深さ 0.5 mを測り、断面に柱痕が明瞭に観察される。P-2は径 0.4 m、深さ 0.25 mほど、P-3は 1.0×0.6 m、深さ 0.3 mほどで、その内に径 0.3 mの柱状のピットが見られた。

出土遺物としては土師器の小皿(17)や製塙土器(18)があった。そのほかに耕作土層中より13世紀の瓦器碗(19)が出土した。

8・10区

耕作土・床土(1、2)より地山(5)までは、砂もしくは疊土(3、4)である。これは現水田造成の際の整地土とも考えられる。付近から奈良時代の遺物片が多く表面採取された。

9区

耕作土・床土およびそれに伴う整地土(1、2、3)の下は、奈良時代遺物包含層(4、5)、同時代の整地土(6、7)、地山(8)となる。遺物包含層は南にいくに従い厚くなる。奈良時代の整地土は $10\sim30$ cm大の疊を多く含むものである。この上面で精査したが、遺構は発見できなかった。

須恵器の壺(20)や壺等の底部(21、22)、土師器の壺が出土している。

11区

耕作土・床土(1、2)の下は、 $30\sim50$ cmの厚さの奈良時代包含層(3~5)、同時代整地土(6)、地山(7)となる。整地土上面で南西へ落ちる落ちこみ状遺構が検出された。半径 1 mほど、深さ 0.15 mの規模である。

遺物としては須恵器の坏蓋（24、25）や底部（26、27）、鉄鉢型（28）、また圓化できなかったが、ふいごの羽口片が出土した。

12区

耕作土・床土（1、2）から地山（6）までは疊や砂層（3～5）で、一部にラミナが見られる。地山面は北から南へ大きく下がる。谷の落ち込みの一部を検出したものであろう。

須恵器の坏蓋（29）が出土した。

13区

耕作土・床土・以上に伴う整地土（1、2、3）、20～30cmの厚さの奈良時代包含層（4）、地山（7）。トレンチの東端の地山面で、径 0.8m、深さ 0.5mほどのピット2つが重なっているのが検出された。柱穴の可能性がある。

遺物としては須恵器の坏蓋のつまみ（30）や土師器の甕（31）があった。

14区

耕作土（1）と地山（4）の間に、（1）に伴うと考えられる土層（2、3）がはさまる。遺物包含層はなく、また地山面でも遺構は見つからなかった。付近から奈良時代の土器片を表面採取した。

15区

耕作土・床土（1、2）を除去すると、黒褐色土の地山（3）となる。遺構、遺物はなかった。

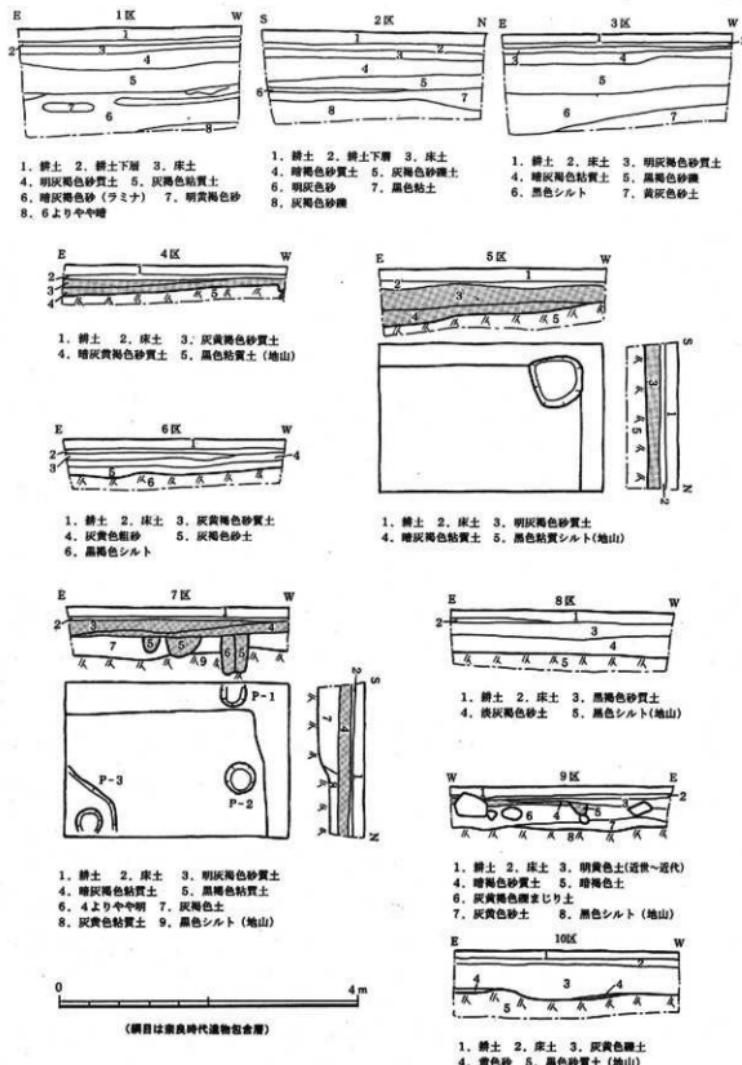
16・17・18・20区

耕作土・床土の下は、基本的に5～20cmの大疊層である。17区において 1.2mほど掘削したレベルで検出された灰褐色砂疊（8）を地山と考えた。

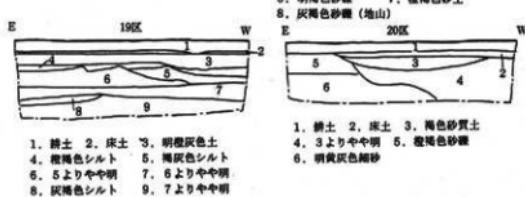
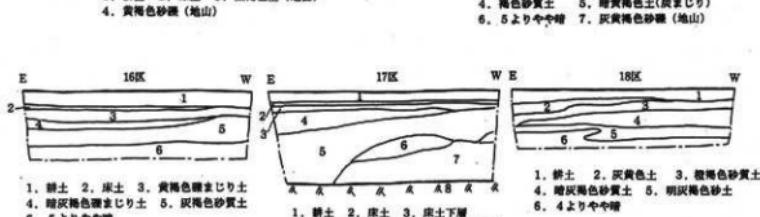
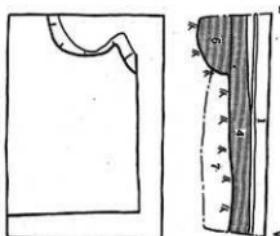
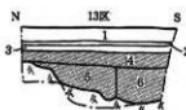
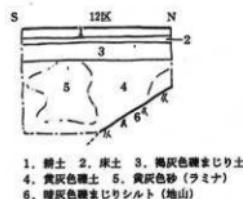
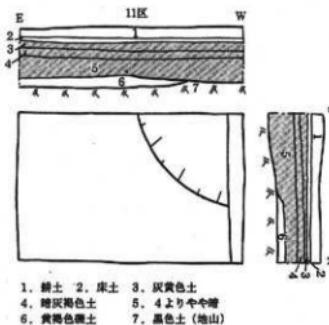
遺物の出土は少なかったが、須恵器（32～34）が若干あった。

19区

耕作土・床土（1、2）の下はいわゆる真砂土で、近年の整地土と考えられる。遺物はなかった。



第3図 1~10区断面図と平面図

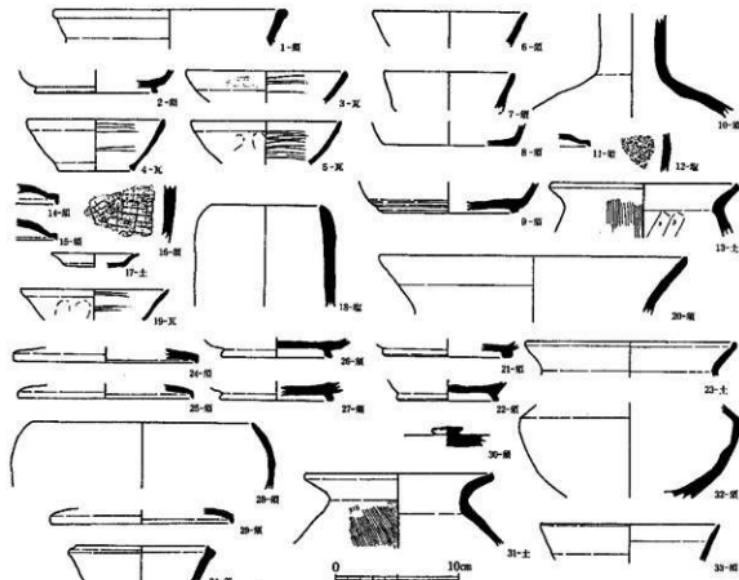


(網目は奈良時代遺物包含層)

第4図 11~20区断面図と平面図

第3章 まとめ

九木田遺跡は遺物散布地として、圃場整備予定地全体が遺跡として94年2月に発見が届け出られたが、今回の試掘調査によってこの遺跡が良好な遺物包含層と確実な柱穴を有する奈良時代後半の遺跡であり、その範囲は第2図で示したものであることが判明した。山間盆地という周りから隔離した地域にあって、豊能町ではこれまで見つかったことのない奈良時代の遺跡が発見されたことの意義は大きい。この遺跡が当時の一般集落跡なのか、それとも官衙的性格を有するものなのか、今のところ判然としないが、それは今後の本調査でその詳しい内容が明らかになるであろう。



(1~3) 1区、(4、5) 2区、(6~13) 4区、(14~16) 5区、(17~19) 7区、(20~23) 9区、(24~28) 11区、
(29) 12区、(30、31) 13区、(32) 16区、(33) 17区、(34) 18区

第5図 九木田遺跡出土遺物

報告書抄録

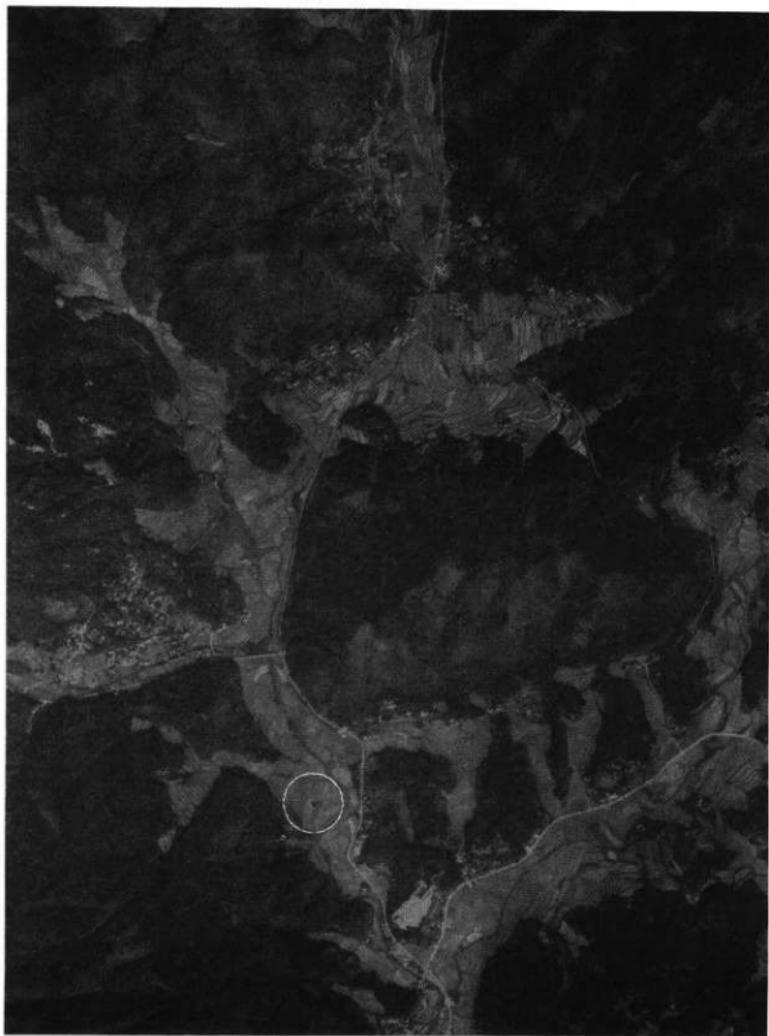
ふりがな	くきてんいせき しくつちょうさ がいようほうこくしょ							
書名	九木田遺跡試掘調査概要報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	辻本 武							
編集機関	豊能町教育委員会 生涯学習推進課							
所在地	〒563-02 大阪府豊能郡豊能町余野1008 TEL 0727(39)0001(協)							
発行年月日	1995年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号							
くきてん いせき 九木田遺跡	おおさかふ とよのく 大阪府豊能 んとよのちょう 郡豊能町 むちゅう ちい 野間口地内			34° 55' 24'	135° 29' 40'	1995年2 月～3月	120 m ²	圃場整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
九木田遺跡	集落跡	奈良時代 後半	柱穴、ビット	須恵器の壺、壺、土 師器の壺、製塙土器 ふいごの羽口など				

図版



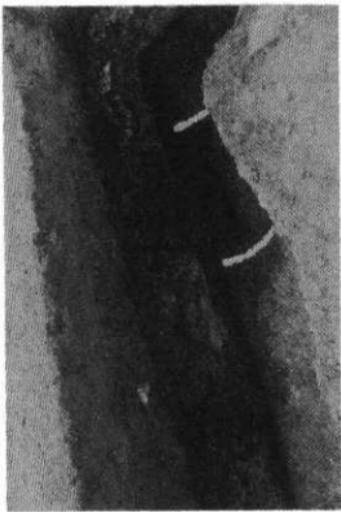
九木田遺跡（調査前 南東から）

図版一 九木田遺跡周辺航空写真（一九六七年撮影）



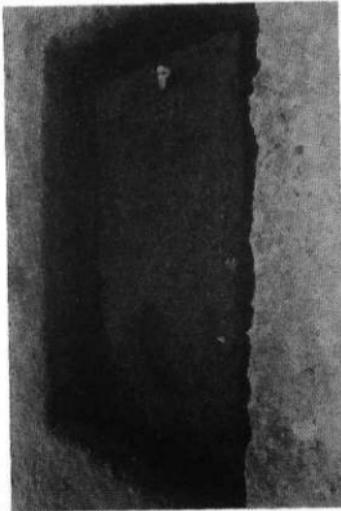
図版一 試掘アトレンチ(1)

7区 P-1

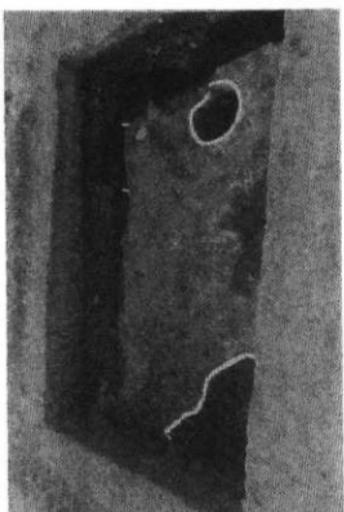


7区

4区

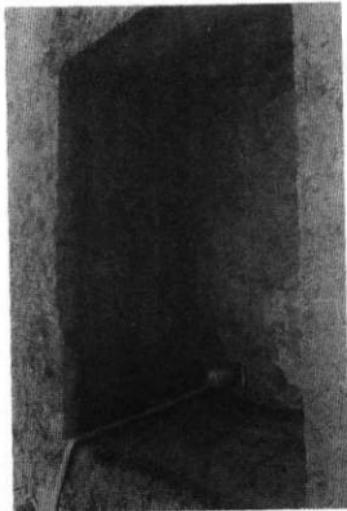


4区



○

—



図版三 試掘トレンチ(2)

9区 断面にかかるピット

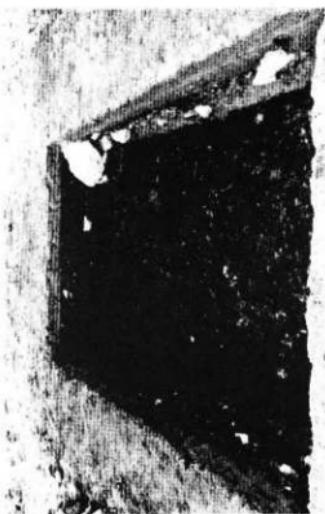


9区

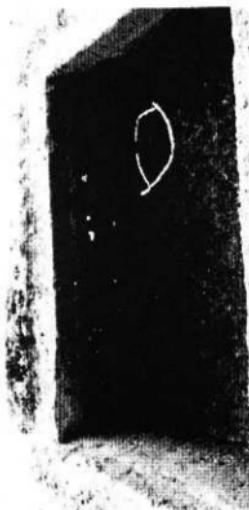
11区



11区

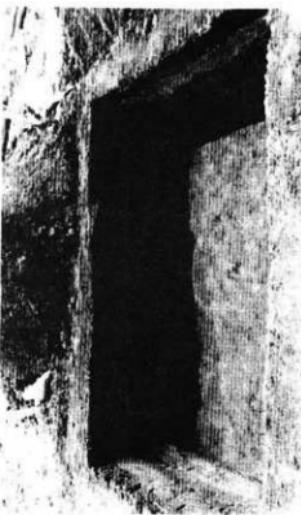


5区



四版試験図(3)

19区



15区

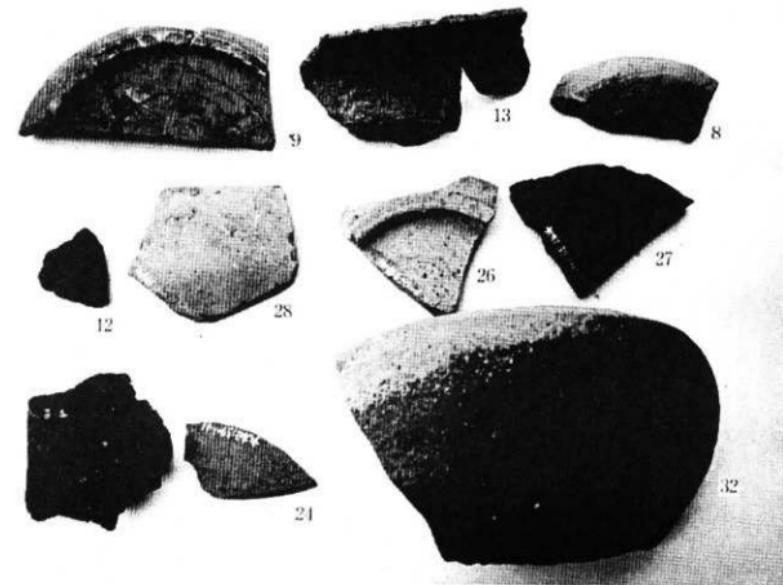
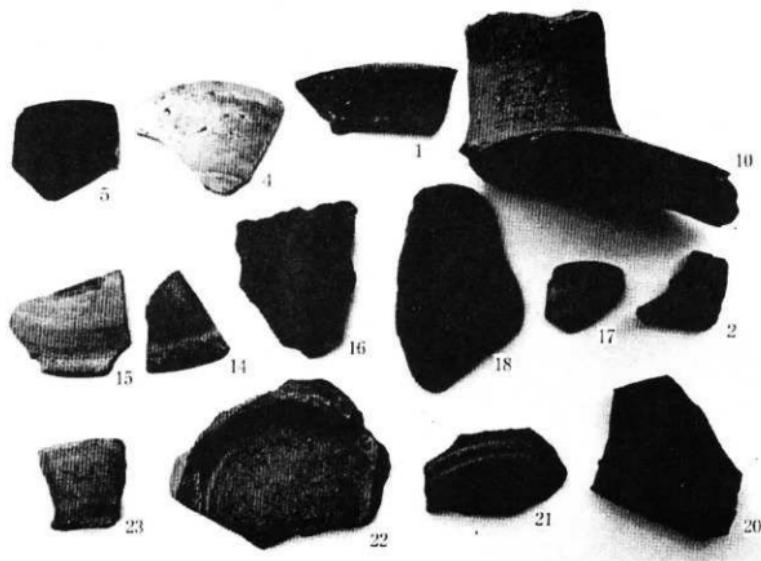


13区



17区

図版五 九木田遺跡出土遺物



下段 左下端はふいごの羽口